

関連団体 代表各位

社団法人日本糖尿病学会
理事長 門脇 孝

拝啓 寒風の候、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より日本糖尿病学会の活動に多大なご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、日常診療における NGSP 値への移行をその根幹とする平成 24 年 4 月 1 日以降の HbA1c 標準化につきまして、多くの関係諸団体各位よりご支援・ご協力のもと基本方針・運用指針を定め、1 月 20 日に滞りなく報道発表を終えることができました。

今後、HbA1c の標準化を着実に実現していく上で、患者さんに混乱を引き起こさないよう、医療現場や検査機関、検査試薬および機器メーカー等に必要十分且つ適切な情報提供が広く行き渡るよう、貴団体を通じ、あらためて周知に関してのご協力をお願いさせていただきたく、ご高配を賜れば幸甚です。

敬具

平成 24 年 4 月 1 日以降の HbA1c 国際標準化に伴うお願い
- 病院・検査機関の皆様へ -

平成 24 年 1 月 24 日
日本糖尿病学会

関係各位

平素より日本糖尿病学会の活動にご理解とご協力をいただき、誠に有難うございます。

HbA1c 国際標準化につきましては、我が国以外で汎用されている National Glycohemoglobin Standardization Program (NGSP) 値と、我が国で用いられてきた Japan Diabetes Society (JDS) 値との差の問題を解決すべく、本学会の常設委員会である「糖尿病関連検査の標準化に関する検討委員会」を中心として関係諸団体とも広く協議を行いながら、平成 22 年 7 月 1 日より、HbA1c (JDS 値) に 0.4%を加えた、NGSP 値に相当する HbA1c を国際標準値として、主に著作・論文・発表の中で用いることを開始させていただきました。

さらに今般、日常臨床や特定健診・保健指導における HbA1c 国際標準化につきましても、国際標準化に向けた検査の標準化・最適化や厚生労働省・日本医師会・保険者団体を初めとする関係諸団体との協議を踏まえて平成 24 年 4 月 1 日以降の国際標準化の基本方針・運用指針を定め、学会誌及び学会ホームページでの掲載や関係諸団体への文書送付実施、各種啓発用ポスターやリーフレットの準備、そして 1 月 20 日の報道発表と、広く告知を進めております。これも皆様方のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

本学会といたしましては、平成 24 年 4 月 1 日以降の HbA1c 国際標準化を着実に推進して参りたいと考えておりますが、これは実際に検査を施行される皆様方のご助力なしに到底なしとげられるものではございません。つきましては、以下に掲げる諸点につきましてご高配を賜りたく、ここにお願ひ申し上げる次第です。大変恐縮ではございますが、HbA1c 国際標準化の臨床的・学術的意義を御汲み取りいただきまして宜しくご協力のほどお願ひ申し上げます。

●病院・検査機関の皆様へのお願い

平成 24 年 4 月 1 日以降の HbA1c 国際標準化基本方針では、日常臨床における糖尿病の診断や治療に NGSP 値を用いていくことをその根幹とし、当面の間 JDS 値を併記すること、また特定健診・保健指導では受診者への結果通知及び保険者への結果報告に JDS 値を用いることとしております。つきましては、以下の 2 点につき皆様方のご高配を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

- (1) 平成 24 年 4 月 1 日以降、日常臨床でも HbA1c は NGSP 値を用いることとなりますので、皆様方におかれましても、関連部署や試薬・機器メーカーともお計らいの上で検査数値の NGSP 値対応をできる限り速やかに行っていただきますようお願いいたします。
- (2) 平成 24 年 4 月 1 日以降も、日常臨床では当面の間 JDS 値を併記し、特定健診の結果報告でも JDS 値が用いられるなど、JDS 値と NGSP 値が混在します。つきましては、ご利用されている機器による HbA1c 検査結果が JDS 値と NGSP 値のいずれであるかを十分ご確認ください、日常臨床の主たる報告 (NGSP 値)・併記 (JDS 値)・特定健診 (JDS 値) の HbA1c 値に誤りの無いよう、また受診者に誤解なく理解していただけますよう特段のご配慮をお願いいたします。

